

# 社会との連携を進めています

駅を地域社会のコミュニティに、憩いの場に、そして街の活性化へ。  
 少子高齢化へ向けた長期的視点にたった保育・介護事業や、文化・国際交流、重要文化財である  
 東京駅の復原や再開発など、地域に根ざした事業を進めています。

## 地域社会の豊かさへ

### ● 駅の近くに「保育園」「介護施設」を

少子高齢化と保育ニーズ・介護ニーズの高まりという社会的課題に応えるべく、駅に近接した場所での「駅型保育園」と「介護事業」を展開しています。

「駅型保育園」は保育事業者・行政と連携した社会貢献型ビジネスとして開発を進めています。2007年3月末現在、計18カ所で展開しています。このうち、埼京線・埼玉新都市交通ニューシャトル沿線には8カ所設置しており、「点」から「線」へと、「より子育てしやすい沿線づくり」をめざしています。

介護事業は、駅型保育園と併設された与野本町駅前の「おひさまデイサービスセンター」など4カ所で展開しています。



国分寺Jキッズステーション

### ● 駅を「街の活性装置」に

“乗降施設”から、多くの方が集う情報・文化の“発信基地”へ。駅の活性化によって地域へ貢献するべく、さまざまな手法で駅のリニューアルを進めています。

自治体による街づくりへの協力として、新駅の設置、自由通路、駅前広場などの周辺整備、街の分断を解消する駅の高架化、公民館や図書館の併設などに取り組んできたほか、アルカード赤羽・生活提案館などのショッピングセンターでも公共スペースを設けるなど、街の賑わいへの貢献をめざしています。また、街並みとの調和をめざした駅舎のリニューアルも各地で実施しています。



駅周辺の「小江戸」を意識したデザインの成田線佐原駅

### ● 地域と共生した「観光開発」

近年、自然や景観の保護、地域住民の社会生活基盤の維持・向上などを視野に入れた、バランスのよい観光開発が求められるようになってきました。

「観光開発は地域おこし」につながるとして、地元と協力したコンセプトづくりからはじめ、首都圏への情報発信に至るまで地域と密着した観光地づくりを長期的に展開しています。「ちばアステーションキャンペーン」では地元との連携を重視し、「リゾートしらかみ」の運行では、地元の方々とともに沿線の魅力向上を図っています。

## COLUMN

### 東京の“玄関口”の復原と再開発

「駅を変えます」を指針に掲げた中期経営構想の一環として、東京駅周辺整備計画を進めています。

その第一弾として2007年3月、日本橋



八重洲口側の完成予想図

口に「サピアタワー」(地上35階)が完成。サピア(知恵)の名のとおり、大学など教育機関が多数入居し、知の交流や情報発信の場となります。

さらに10月には、同八重洲側に地上40階を超える2本の高層タワーが完成予定。あわせて中間に位置する現在の東京駅八重洲本館を撤去することにより、駅前広場の奥行きが広がり、交通結節点機能の改善を図れるほか、東京湾より吹き込む海風を止めずに都心に流す“風の道”を確保し、都心部のヒートアイランド化を緩和する効果も期待できます。

一方、丸の内側は、赤レンガ駅舎の保存・



保存・復原される赤レンガ駅舎(丸の内側)

復原工事に2007年度より着手。

国の重要文化財であり、首都東京の“顔”とも言うべきこの駅舎。戦災で屋根、3階とドーム部分を損傷し、応急復旧で2階建てとして今日に至っています。今回の工事では、1914年竣工時のオリジナルな形へと復原します。

## 国際社会への貢献

### ● 技術・ノウハウの国際協力

海外の鉄道関係者へ、JR東日本が持つ技術やノウハウを広く提供しています。

2006年度は、45か国446名の海外の視察・訪問を受け、国営鉄道を民営化させる際の課題や手法について、あるいは新幹線やSuicaに代表される先端技術の紹介、さらには地球環境保護、生活サービス事業に関する多彩なセミナーや現場視察を実施、情報提供を行いました。

さらに、国際協力機構などの要請に基づき、アジアなど近隣諸国への鉄道専門家の派遣を行い、現地での指導などを通じて、国際協力を進めています。

#### ■ 国際協力の2006年度実績

専門家派遣	短期(1年未満)	1か国1名(2回)
研修受入	国際協力機構より	のべ66名
視察受入	45か国	のべ446名

### ● 諸外国鉄道との交流

ドイツ鉄道、イタリア鉄道、フランス国鉄との間で協力協定を締結し、JR東日本と各鉄道との間で、研究開発や経営などに関する情報交換を図り、長期的な交流を視野に置いた社員の派遣や受け入れを相互に行っています。

また、中国や韓国などアジアの近隣諸国に対しても、技術、経営など鉄道全般に関する情報交流を進めています。

このような各国鉄道との交流を通じて、鉄道事業のグローバルな振興・発展に寄与できるよう努めています。

## 東日本鉄道文化財団

JR東日本の社会貢献活動を恒常的なものにするため、1992年に(財)東日本鉄道文化財団<sup>※1</sup>を設立し、鉄道を通じた地域文化の振興、鉄道に関わる調査・研究、国際文化交流を推進しています。

### ● 鉄道に関する調査・研究と国際交流

同財団では、「鉄道文化と新しい交通社会の探究」を基本テーマとした調査・研究を支援し、この成果を財団の事業活動情報とともにホームページで公開。その他の各種資料についても、テーマ別にCD-ROMやDVDとして刊行しています。

また、世界各国の有識者の意見交換の場として評論誌『JRTR』<sup>※2</sup>をはじめ、鉄道関係の英文図書を発行しています。

さらに、アジア各国の鉄道事業者から若手を中心とした幹部職員を日本へ招き、鉄道経営、技術などの研修を実施しています。2006年度は、中国、インドネシア、マレーシアなど9か国から計44名を受け入れました。

### ● 地域文化の振興

さらに地域文化の振興へ向け、東日本各地の貴重な文化遺産や伝統芸能の保存と継承のために助成を行っています。

2006年度は「一之宮八幡大神屋台修繕事業」(神奈川県)、「青梅宿保存事業」(東京都)など、合計15件、約5,200万円の助成を実施しました。

また、東京ステーションギャラリーは、東京駅工事にともない休館中ですが、展覧会は旧新橋停車場をはじめ代替の会場で開催しています。

## 次世代を育むために

### ● 鉄道博物館

東日本鉄道文化財団の建設・運営により、埼玉県さいたま市に2007年10月オープンする「鉄道博物館」。同館では、旧「交通博物館」から引き継いだ文化遺産をはじめとした、鉄道に関する豊富な資料を展示・収蔵し、また独自の調査・研究を行います。

36両の実物車両展示や情景再現展示を通して鉄道システムの変遷を産業史として伝える「ヒストリーゾーン」のほか、子供たちが鉄道の原理・仕組みを独自の学習利用プログラムを用いて体験学習できる「ラーニングゾーン」を設置するなど、規模・質ともに世界でもトップクラスの鉄道に関する博物館となります。



2007年10月にオープンする「鉄道博物館」

### ● 鉄道少年団

鉄道少年団は、青少年の交通道德の高揚を目的に、(財)交通道德協会が運営しており、JR東日本管内では12支部約500人の団員が活動しています。JR東日本では各支社に事務局を設置し、駅の清掃活動や各種鉄道施設の見学などの活動の場を提供し、次世代の交通道德の向上に資するべく、積極的に支援しています。

※1 東日本鉄道文化財団  
URL: <http://www.ejrcf.or.jp/>  
電話:03-5334-0623

※2 評論誌「JRTR」  
【Japan Railway & Transport Review】